

構成主義の教育効果に関する一考察

— 高等学校「映像制作」授業の実践を通じて —

A Study of the Effect of Constructivism Approach:

A lesson practice of movie production in high school

Hiroko Imagawa

今川 弘子

要 旨

日本においてはこれまで、かつての偉大な研究者や思想家が生み出した知識を敷き写し、物事を理解し社会を構築する客観主義的な教育方法が続いてきた。学校教育においては、教科書に書かれた体系化された知識を学ばせる手法が主流であったが、1996年に文部科学省中央審議会が提唱した「生きる力」が基礎教育の理念として用いられるようになって以降、自らが知識創造の主体として物事を展開し理解する構成主義的な手法が注目を浴びている。構成主義とは、「知識とは各々の目的や価値観によって事象から多様に構成される」という基本的考えに立脚した理論や実践を示すものであり（川田、2010）、構成主義の教育とは、学習者を「積極的に環境に働きかけ、既存の知識を駆使して、新しい知識を主体的に構築していく存在」として見なす。また、教育者は、学習を「学習者自身が知識を構築してゆく過程」とであると捉え、「学習者が主体的に世界と関わることを支援するための環境を整えること」に重きを置く。（久保田、2000）。本稿では、構成主義教育の試みとして筆者の担当する高等学校授業でのドラマ制作活動の様子とアンケート調査結果の報告を通じて、構成主義に基づく学習の効果と問題点を記した。

キーワード：構成主義、高等学校、授業実践、映像制作、ドラマ

第一章 本研究の目的

構成主義とは、ある特定の分野を指すものではなく、理論構築をするためのもととなる基本的な考え方（哲学）を共有している理論や実践を示す言葉である（久保田、2000）ⁱ。そして、この基本的な考え方とは、「知識とは各々の目的や価値観によって事象から多様に構成される」というものである（川田、2010）ⁱⁱ。構成主義は、政治学や社会学、また経営学などでも幅広く用いられる概念であるが、構成主義の基本的思想を受け止めるにあたってとりわけ理解しやすいのが教育学の理論および実践である。教育分野における構成主義は、学習者を「積極的に環境に働きかけ、既存の知識を駆使して、新しい知識を主体的に構築していく存在」と見なし、「学習者が主体的に世界と関わることを支援するための環境を整えること」を教える側の重点とする（久保田、2000）ⁱⁱⁱ。ここでは、学習を「学習者自身が知識を構築してゆく過程」と捉え、共同体の中での相互作用などを通じて行われるものとする（久保田、2000）^{iv}。また、学習のために物事の探索や学習者同士のやり取り、また、まちがうことのできる場や学習者をそこで助けることができるシステムが用意される点も構成主義教育の特徴である（久保田、2000）^v。こうした構成主義の教育は、学習者を「知識のない受動的な存在」と見なし、体系化された客観的知識を覚えることに専念する「客観主義教育論」に対して懐疑的な立場にある。

これまで日本の学校教育現場では、教科書や参考書の活用を通じて体系化された知識を教える客観主義的な学習方法を主流としてきたが、テクノロジーの発展により社会が流動的なものへと変化したことで、自ら課題を見つけ主体的に判断し行動するといった能力の育成が重視されるようになったこと^{vi}やワークショップやファシリテーターといった構成主義的な新たな実践が広く注目を浴びたことで、今や学校での学習理論も客観主義から構成主義へと見直しつつあるとあって過言ではない^{vii}。例えば、2000年から初等、中等教育で始まっている総合的学習の時間もその流れの一つと言えよう。しかしながら、構成主義の学習を実際の学校授業で展開するために参考となる事例や、生徒にどのような意識や能力を形成するか示す考察が少ないために、構成主義教育が実際には容易に理解されていないことも現状である。よって、本稿では、構成主義教育の試みとして筆者が実施した高等学校「映像制作」授業でのドラマ制作の活動とアンケート調査の分析結果の報告を通じて、構成主義に基づく学習が生徒に

どのような知識の構築や意識を形成するのか考察した。

第二章 高等学校「映像制作」授業における構成主義的アプローチ

2.1. 調査対象と期間

本稿で報告する授業実践は、A 府にある私立女子高等学校 B 校の美術系コースの生徒を対象に開講される「映像制作」にて行った。このコースの府内での偏差値は 38 であり、学生の普段の学習姿勢は比較的に消極的である。「映像制作」は高校 3 年に開講されている選択科目のひとつであり、週に 1 回、50 分の授業を二時限連続形式の合計 100 分で三学期に渡り実施した。カリキュラムの実施期間は、2010 年 4 月から 2011 年 3 月までの 11 ヶ月間であり、授業は合計 24 回実施した。また、授業外時間に自由参加の授業を 3 日実施している。調査対象は「映像制作」受講者 21 名であり、講師は筆者が担当した。また、美術科の非常勤講師 1 名と大学院博士課程の学生 1 名が授業アシスタントとして参加した。

2.2. カリキュラムの概要

映像制作授業における「映像」とは、多様な様式・内容があり、制作におけるプロセスなども様々だが、このカリキュラムでは学習者の身近な存在であり、かつ芸能人との接触を予期させるなどはなやかなイメージを持つ「ドラマ」というカテゴリに限定している。授業のテーマを 20 分程度の短編ドラマをひとつ作成することとし、1 年の期間をかけて物語の枠組みからオーディションや撮影といったドラマのプロデュース過程を本格的に体験することを授業の目的としている。本カリキュラムは、学習を「学習者自身が知識を構築してゆく過程」であると捉える構成主義の思想を念頭に筆者が開発したものであり、具体的には次の点から構成主義の学習を試みている。まず、生徒自身のアイデアで一から世界を構築し、実現環境を整えてゆくことで知識を習得してゆく点である。次に、実際の映像制作現場をモデルにした学習プロセスを通じて、生徒の意識下にある興味や各々の世界観を引き出しながら絶えず制作を行っている点である。さらに、オーディションや撮影といったプロセスを通じて、実際の芸能プロダクションやプロの俳優、撮影の専門家といった外部へ働きかけを行うことで、学校という枠組みを越えて社会との主体的な関わりを体験的に学習する点である。こうし

たカリキュラムの学習内容および構成については図1に示した。また、「映像制作」を開講するにあたり作成した学習指導計画は論文の最終に記した。

学び	アイデアを企画する						成果に結びつける					
	アイデアを形成する			企画を実行する			成果を問う					
日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	物語の生成			オーディションの準備			撮影					
	物語の決定			オーディションの実行			編集					
	担当する役割の決定			役者の決定								
				ロケーション・ハンティング			制作発表					
	シナリオ作成			撮影場所の決定と手配								
	撮影機材の手配			顔合わせ・読み合わせ								
				絵コンテの制作								
				スケジュール（番番表）作成								

(図1) 構成主義的学びと学習内容および構成

2.3. 実践の様子

「映像制作」の実践の様子を以下に紹介する。ここでは、分かりやすくするために学習を5つのプロセスに分けてその詳細について記すこととする。

(1) 構成主義的学習 第一段階：「アイデアを生成する」「アイデアを形成する」

ここでは、趣味が共通する者同士で小規模グループを形成し、生徒同士あるいは生徒と教師の対話を通してドラマの原作となるストーリーの構想を行った。また、原作の決定はグループ間でアイデアを競争する「コンペティション」を開催し、生徒の最も支持を得たストーリーを採用する方法で行った。

このコンペティションによって決定したストーリーは、2人組のグループが創作した



(写真) コンペティションでのプレゼンテーション風景

「STEP UP」という作品である。「STEP UP」は、進路の決定時期を迎え悩む高校3年の生徒が、ある教師との出会いを通じて大学進学への夢や教師への憧れを抱く物語である。信頼する教師と全く対照的な教師の相反する助言に翻弄される生徒の姿を描いている。採用が実現しなかったグループの作品は、異性愛と同性愛の混在した学園物語や純愛をテーマにした男女の物語、かくれんぼを通じて事件を読み解いてゆくミステリーや言い伝えを用いたホラー作品など様々であり、それぞれグループの個性が発揮されていた。

(2) 構成主義的学習 第二段階：「アイデアを企画する」「実現環境を整える」

ここでは「シナリオ制作」「オーディション」の2つのグループを形成し、生徒で作業を分配して制作準備を行った。シナリオ制作を担当したグループでは、B校の教員複数人にインタビューを実施し、子ども時代の話や教師になるまでの経緯、現在の心情などをシナリオ制作の参考とした。オーディションを担当したグループでは、芸能プロダクションの検索からキャストの募集概要および書類の作成、オーディションのタイムスケジュールの作成まですべてを担当し、進行した。

(3) 構成主義的学習 第三段階：「企画を実行する」

芸能プロダクションや劇団から応募のあった23名の俳優を集め、オーディションを実施した。審査員から進行までのすべてを生徒が行った。結果は教師役としてプロダクション所属の2名と主人公の生徒役として専門学校在籍中の1名の男性キャストが採用された。採用後、放課後を活用して役者の顔合わせとシナリオの読み合わせ、衣裳の確認を1回実施した。また、監督を務めた生徒を中心に絵コンテの作成やロケーションハンティングを実施している。



(写真) オーディション資料を確認する生徒

(4) 構成主義的学習 第四段階：「成果に結びつける」

撮影期間を2日とし、講師や授業アシスタントのサポートのもと、高度な撮影技術を要するカメラ以外の技術ポジションや現場進行を生徒が担当した。また、生徒は制作以外にも学生役やエキストラなどで作品に出演した。撮影後の授業では、映像の確認や編集過程の説明を実施した。あらかじめ講師がパソコンに取り込んだ映像を全員が確認し、編集の簡易なデモンストレーションを実施した。ここでは、各シーンの映像をつなげるための手法として、インサートカットによる編集方法の紹介を行っている。なお、本編と予告編の編集は、学習者が作成した絵コンテをもとに、冬期休暇中に講師と授業アシスタントが共同して務めた。

(5) 構成主義的学習 第五段階：「成果を問う」

制作関係者を学内に招待し、完成した作品の上映会を実施した。鑑賞会の後、これまで学習を共にやってきた生徒と講師、授業アシスタントなどでこれまでの学習を振り返った。

第三章 アンケート・インタビュー調査と結果

3.1. 調査方法

「映像制作」を受講した高校3年の生徒21名を対象に最終授業でアンケートおよびインタビューを実施し、構成主義授業カリキュラムによって、どのような学びが実現されたか、またどのような能力が育成されているのかを調査した。インタビューは、講師である筆者がアンケートの回答で十分に語られなかった事柄について追加質問したものである。

3.2. アンケート・インタビューの質問事項

アンケートはYES・NOの二択から選択するものと質問に対して自由に記述するものの二つの回答方法により構成されている。質問事項は8項目あり、内容と回答方法は以下に記した。また、一部インタビューを行った問いの内容についても以下に示す。

〈アンケート〉

問 1：授業は楽しかったですか？（YES・NO から 1 つ選択）

問 2：自分にとってこの授業は良い授業だったと思いますか？（YES・NO から 1 つ選択）

問 3：授業の感想を記入してください。（記述）

問 4：この授業でどのような能力が養われたと思いますか？〔精神的なことまで OK〕（記述）

問 5：他の授業で今回の授業のようなレベルのクリエイティブな経験をしたことはありますか？（YES・NO から 1 つ選択）

問 6：人生の中で今回の授業のようなレベルのクリエイティブな経験をしたことはありますか？〔学校行事やクラブ活動や地域活動やインターネット上など〕（YES・NO から 1 つ選択）

問 7：今後このような機会が人生の中で再びあると想定しますか？（YES・NO から 1 つ選択）

問 8：もし機会が今後あるとすれば再びやりたいと思いますか？（YES・NO から 1 つ選択）

〈インタビュー〉

問 1：問 3 に書かれることを具体的に教えてください。

問 2：（問 1 で良い経験や貴重な経験と述べた生徒に対して）「良い経験」「貴重な経験」とはどんな経験のことですか？

問 3：問 4 に書かれていることを具体的に教えてください。

3.3. アンケート・インタビューの結果

上記の質問から得た回答を人数とパーセンテージに示し、一部図にした。また、記述の質問にて回答された結果は、生徒を A-U のアルファベット表記で区別し、書かれた内容を示す表にした。なお、質問の趣旨とは違う回答をした者や回答の無かった者については無回答としている。

問 1 の「授業は楽しかったですか？（YES・NO から 1 つ選択）」では、結果 21 名

(100%) が YES を選択した。問 2「自分にとってこの授業は良い授業だったと思いますか？ (YES・NO から 1 つ選択)」でも同様に、結果は 21 名 (100%) が YES を選択した。

問 3 の「授業の感想を記入してください。(記述)」とインタビューの結果は、表 1 の通りである。

(表 1) 問 3 の結果

生徒	アンケート回答	インタビュー回答
A	初めての経験で楽しかった。	これまで映像を見る立場だったが、自分たちでやってみてこんなに大変なんだという気付きがあった。
B	いろいろ大変だったが楽しかったし貴重な経験になったと思う。	めずらしい経験ができた。
C	沢山の役者といろいろな話ができて良い経験ができた。	初めての経験だった。
D	ドラマを1本撮るためにこれだけ沢山の仕事があり大変だと思った。たまに嫌なことがあったりしたが、良い経験ができたと思う。	めずらしい経験ができた。
E	自分の思い通りに行かないところもあり、監督の名を頂くことには少し考えたが、音響が楽しく役者と話をすることもできたので良かったと思う。	自分たちでつくりたいと思うものができた。つくりたいと思っていても普通はできない。
F	経験できてよかった。	回答なし
G	楽しかった。	回答なし
H	回答なし	カチンコを持つことが憧れだった。それができたことで十分に満足している。やっぱり楽しかった。
I	良い経験ができた。	今後の人生に影響はないが、一生に一回高校生活最後に皆でやったことが思い出に残った。
J	すごく楽しかったし、良い経験になった。	もう二度としないと思うから。

K	早く完成を見たいと思った。	回答なし
L	いい経験ができて良かった。	普通だったらこんな経験できない。
M	大変やったけどめっちゃ楽しかった。	回答なし
N	映像制作の選択をとってよかった。	回答なし
O	疲れた。	責任が重かった。
P	本当に良い経験ができた。	回答なし
Q	とにかく楽しめたので良かった。	回答なし
R	最初はどうかと思ったが、すごく良い作品ができて良かったと思う。経験できないことができて良かった。	回答なし
S	私が考えたことは楽しく思った。	回答なし
T	撮影など普段できない初めてのことができて良かった。シナリオを考えることが楽しかった。私はあまり活躍できず残念だ。	撮影やオーディションなどに多く参加することができず、残念だ。
U	一年間楽しかった。	本格的なことをやっているのはめずらしい。

問4の「この授業でどのような能力が養われたと思いますか？（記述）」とインタビューの結果は表2の通りである。

（表2）問4の結果

生徒	アンケート回答	インタビュー回答
A	おもてなし	俳優に会って、友人ではない人との接し方を自分なりに見つけた。
B	回答なし	最初は楽しくなかったが、生の演技を見るなどの過程を通じて最後は楽しむことができた。
C	発想力が良くなった	こうしたらもっとよく見えるなどのアイデアを加えてゆくことができた。

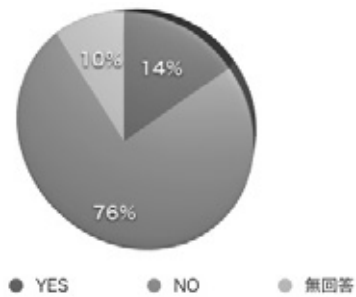
D	回答なし	スクリプトを担当したが、最初は向いていないかなと思ったが、分かってきたら楽しかった。
E	周りを見て行動する力	その時々に合わせて行動することができた。
F	初対面の人と仲良くなる力 先のことを考えて動く力 人に動いてもらう時の言い方や頼み方	高校生を相手によくしてくれる役者に感心し、はじめはだれていたけれどきちんと対応しなければいけない自覚が生まれた。
G	回答なし	カメラをもっと動かして撮影していると思っていた。
H	チームワーク	仕事をまっとうすることができた。他の授業と違い周囲もチームワーク力が高まっていた。
I	カット、take の意味が分かった	スクリプトの役割を通じて理解した。オーディション以降授業に興味を持った。エキストラに友人が出ておもしろかった。
J	やしなわれたと思う	シナリオ制作の難しさやオチをつくることの難しさに気付いた。細かくシーン分けして撮影したものをくっつけてできていることに気付いた。皆しっかりしていることに改めて気付いた。
K	台詞をしっかり覚えてらっしゃってすごいと思った	いろんな人が来て楽しかった。
L	回答なし	皆ひとつひとつの仕事がありそれができた。この人にはこんな仕事が合っているなどの気付きがあった。
M	シナリオとか最初からみんな協力したこと	回答なし
N	わからない	回答なし
O	わからない	回答なし
P	これまで見たことのなかった撮影現場を間近で体験し、自然に動くことができた	回答なし

Q	みんなで協力し合うことができた	回答なし
R	みんなで1つのことをつくる 協力する 想像力を使って工夫する	回答なし
S	集中力	マイクを持つという経験を通じて集中力を養った。
T	積極性と協調性	役者にお茶を出すなどの撮影の経験から自分で考えながら動くことができた。
U	想像力	シナリオ制作を通じて答えの無い課題に取り組めた。

次の問5「他の授業で今回の授業のようなレベルのクリエイティブな経験をしたことはありますか？（YES・NOから1つ選択）」では、結果YESを4名（19%）、NOを16名（76%）が選択した。そして、問5の問題からさらに視野を拡大した問6「人生の中で今回の授業のようなレベルのクリエイティブな経験をしたことはありますか？〔学校行事やクラブ活動や地域活動やインターネット上など〕（YES・NOから1つ選択）」では、結果YESを4名（19%）、NOを15名（71%）が選択した。

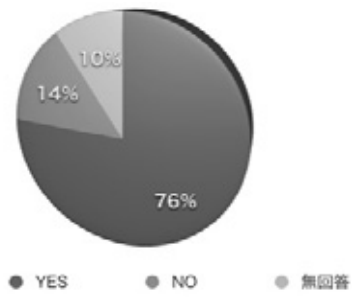
問7「今後このような機会が人生の中で再びあると想定しますか？（YES・NOから1つ選択）」では、結果YESを3名（14%）、NOを16名（76%）が選択した（図2）。これに関連する問いとして、「もし機会が今後あるとすれば再びやりたいと思いますか？（YES・NOから1つ選択）」という問8の結果は、問7に全く反対のYESを16名（76%）、NOを3名（14%）が選択する結果となった（図3）。問7と問8の生徒の回答結果は、以下の表3と表4の通りである。この表では、上記の表1と表2に用いたアルファベットで生徒を区別している。

問 7：今後このような機会が人生の中で再びあると想定しますか？



(図 2) 問 7 の結果

問 8：もしこのような機会が今後あるとすれば再びやりたいと思いますか？



(図 3) 問 8 の結果

(表 3) 問 7 の結果

YES	K、O、S
NO	A、B、C、D、E、G、H、I、J、L、M、N、P、Q、R、U
無回答	F、T

(表 4) 問 8 の結果

YES	A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、M、N、O、R、U
NO	L、P、S
無回答	Q、T

3.4. 分析および考察

以上のアンケートとインタビュー調査を「授業の評価について」「授業で育成された知識や能力について」「学びとそれにつながる将来像について」の3つの視点から分析し、考察した。

(1) 授業の評価について

問1と問2の質問で授業を「楽しかった」と回答した生徒の割合は100%であり、「自分にとって良い授業であった」とした回答した割合も同じく100%であったことから、授業での活動が生徒に一定の満足感を与えるものであったと言える。

また、問3の「授業の感想」で多くの生徒が述べている「良い経験だった」、「貴重な経験だった」というコメントに着目し、インタビューでどのような点が良かったのかを尋ねた結果、「初めての経験だった」、「本格的なことをやっているのはめずらしい」、「普通だったらこんな経験できない。」の回答があった。これは、問5、問6の質問で「授業およびこれまでの人生においてこうした創造的・独創的な活動経験をしたことがある」と回答する生徒が全体の19%であり、約80%が経験したことがないと回答している状況を再度確認出来る結果となっている。

(2) 授業で育成された知識や能力について

学習を通じてどのような能力が養われたかを聞く問4の質問結果によると、「カット、takeの意味が分かった：スクリプトの役割を通じて理解した。オーディション以降授業に興味を持った。」、「シナリオ制作の難しさやオチをつくることの難しさに気付いた。細かくシーン分けして撮影したものをくっつけてできていることに気付いた。」などの回答が示す様に、生徒はドラマ制作の体験を通じて自ら映像の理解を深めたことが見て取れる。

さらに、問4の回答には「おもてなし」、「発想力」、「周りを見て行動する力」、「初対面の人と仲良くなる力」、「先のことを考えて動く力」、「人に動いてもらう時の言い方や頼み方」、「チームワーク」、「集中力」、「積極性と協調性」、「想像力」などのキーワードがあったことから、多様な角度の気づきが自律的に発生していることも分かった。

こうした生徒の内省によって明らかになった知識や能力は、2006年2月に産学の有識者による委員会⁵⁰で経済産業省から発表された「社会人基礎力」と重なる要素を多く含んでいる。「社会人基礎力」⁵¹とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を3つの能力（12の能力要素）で定義付けしたものであり、3つの能力とは、「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り

強く取り組む力)」、「考え抜く力(疑問を持ち、考え抜く力)」、「チームで働く力(多様な人々とともに、目標に向かって協力する力)」である。構成する12の能力要素を以下に示す。

- ・主体性(物事に進んで取り組む力)
- ・働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)
- ・実行力(目的を設定し確実に行動する力)
- ・課題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)
- ・計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)
- ・創造力(新しい価値を生み出す力)
- ・発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)
- ・傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)
- ・柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)
- ・状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)
- ・規律性(社会のルールや人との約束を守る力)
- ・ストレスコントロール力(ストレスの発信源に対応する力)

(出典：経済産業省「3つの能力／12の能力要素」2006)

この12の能力要素は、近年、経済産業省などで実施されてきた様々な調査で用いられており、2006年に経済産業省が東証一部上場企業1,671社と中堅・中小企業1,000社に実施した「社会人基礎力に関する緊急調査」[※]によると、経営者が主体性を重視すると回答した企業は84.3%、続いて、実行力(79.5%)、課題発見力(74.6%)、柔軟性(68.6%)、創造力(67.6%)であると報告されている(出典：経済産業省「社会人基礎力に関する緊急調査」2006)。また、2010年に日経HRが上位100位以内企業64社を対象に行った2011年度春入社予定の新卒採用活動に関するアンケート[※]でも、「社会人基礎力」項目の中で、「採用時に重視する点」として主体性(83.7%)、続いて実行力(54.1%)となっている(出典：2010年2月22日付日本経済新聞第2部「大学生の就職希望企業ランキング」)。

表2の問4の回答を見ると、こうした企業が要求する上位の能力のキーワードを

含んでいる。例えば、「役者に合って、友人ではない人との接し方を自分なりに見つけた。」「その時々に合わせて行動することができた。」「仕事をまっとうすることができた。他の授業と違い周囲もチームワーク力が高まっていた」、「役者にお茶を出すなどの撮影の経験から自分で考えながら動くことができた」、「想像力を使って工夫することに気付いた」、「シナリオ制作を通じて答えの無い課題に取り組めた。」の様に自ら考えて行動している様子が書かれている。

(3) 学びとそれにつながる将来像について

ここでの育成された知識および能力と自分の将来との関係性を生徒自身はどのように捉えているかを次の質問と結果をもとに分析した。

問7の「今後このような機会が人生の中で再びあると想定しますか？」という質問では、3名（14％）がYESと回答し、16名（76％）がNOと回答した。一方、問8の「もしこのような機会が今後あるとすれば再びやりたいと思いますか？」の質問では、16名（76％）がYESと回答、3名（14％）がNOと回答し、問7の結果と反する結果になった。さらに、問8で「再びやりたいと思う」と回答した生徒が問3の授業の感想では「自分たちでつくりたいと思うものができた。つくりたいと思っていても普通はできない。」「もう二度としないだろう。」などと回答している結果から、ここでの育成された知識および能力を将来どのように活用することができるのか生徒は明確に理解できなかった可能性がある。

4. ま と め

本稿では、構成主義教育の試みとして筆者が実施した高等学校授業でのドラマ制作活動について報告した。さらに、アンケート調査の分析を通じて、活動が「初めての経験」や「めずらしい経験」をもたらす満足度の高いものであったことや、現代日本社会で要求される知識や能力の獲得に貢献する内容であったことを明らかにした。また、活動によって養われた知識や能力が生徒の想定している将来像とは容易に結びついていない状況についても記した。これらは、構成主義に基づき実施した授業の特性を示した一考察であるが、ここで明確にした効果や問題点は今後構成主義を学校教育に浸透させてゆく上で検討すべき必要な観点であると捉えている。今後は、構成主義

教育のアプローチとしてドラマ制作以外の題材にも視野を広げ、更なる授業設計および調査に努めたい。

謝 辞

本研究の实践および構成にあたり、ご協力いただきました協力校および関係者各位に心から感謝申し上げます。

〈注 釈〉

- i 文献(7) p. 50
- ii 文献(5) p. 75-79
- iii 文献(7) p. 49
- iv 文献(7) p. 28-29
- v 文献(7) p. 30-31
- vi 1996 年 7 月 19 日の中央教育審議会答申「21 世紀を展望したわが国の教育のあり方について」第 1 部「今後における教育のあり方」(3)「今後における教育のあり方の基本的な方向」において、現行学習指導要領の教育理念である「生きる力」を以下の様に説明している。

「我々はこれからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を〔生きる力〕と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。」
- vii 日本教育工学会「新時代の学習評価」特集号 論文募集要項 HP では、「近年、学習理論の主流が構成主義に変化してきたことにより、」という文体から始まっている。http://www.jset.gr.jp/news/news100928_r.html (2011 年 7 月 12 日現在)
- viii この委員会は座長の諏訪康雄法政大学大学院教授を筆頭に組織されている。

- ix 2006年2月に産学の有識者による委員会（座長：諏訪康雄法政大学大学院教授）にて発表された「社会人基礎力」とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として3つの能力を12の能力要素で定義付けしたものである。3つの能力・12の能力要素の詳細は「経済産業省による報告書（PDF）」から参照した。
- x 2006年に経済産業省が東証一部上場企業1,671社と中堅・中小企業1,000社に実施した「社会人基礎力に関する緊急調査」によると、トップの主体性を重視すると回答した企業は84.3%、続いて、実行力（79.5%）、課題発見力（74.6%）、柔軟性（68.6%）、創造力（67.6%）であり、若手社員に求める能力については、同じく主体性がトップの結果となり、最も重視されている能力が最も不十分であるという結果が見られた。
- xi 「大学生の就職希望企業ランキング」は、日経 HR が毎年上位100位以内企業を対象に行っているアンケート調査である。

〈参考文献〉

- (1) 伊藤敏朗 増田有記「大学ゼミにおけるドラマ制作演習——ビデオドラマ『さよならサクラFM』の制作——」『東京情報大学研究論集 Vol. 8 No. 1』東京情報大学、2004
- (2) 稲垣佳世子 波多野誼余夫『知的好奇心』中公新書、1973
- (3) 稲垣佳世子 波多野誼余夫『人はいかに学ぶか：日常認知の世界』中公新書、1989
- (4) 岩川直樹「関係の編み直しを支える教師——そのファシリテートの重層性とコーディネートのもろ多様性」『開発教育 Vol. 56』明石書店、2009
- (5) 川田隆雄他「ビジネス創造の現場に流れ込む社会構成主義の潮流——プロデューサー型人材の考察から——」『VENTURE REVIEW』日本ベンチャー学会、2010
- (6) キャロル S. ドゥエック『「やればできる！」の研究——能力を開花させるマインドセットの力』草思社、2008
- (7) 久保田賢一『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』関西大学、2000
- (8) クルト・レヴィン「場の理論と学習」『社会科学における場の理論』誠信書房、

1942

- (9) 佐藤麻里子「スウェーデンの学校教育における「主体性と発信力」の育成——「影響力の発揮」というキーワードに着目して——」『教育学研究年報 Vol.27』東京学芸大学学校教育科教育学教室、2008
- (10) 清水毅四郎「夢、そしてその後——小学校卒業三十年後の社会科授業検討会を想起して——」『教育と医学 Vol.57 No.3』慶應義塾大学出版会、2009
- (11) ジョン・ドゥーイ『経験と教育』講談社、2004
- (12) 遠山亮子・野中郁次郎「「よい場」と革新的リーダーシップ：組織的知識創造についての試論」『一橋ビジネスレビュー』一橋大学イノベーション研究センター、2000
- (13) 中村恵子「教育における構成主義」『現代社会文化研究 No.21』新潟大学、2001
- (14) 中澤静男 田淵五十生「構成主義にもとづく学習理論への転換——小学校社会科における授業革命——」『教育実践総合センター紀要 Vol.13』、2004
- (15) 中野民夫『ワークショップ——新しい学びと創造の場』岩波新書、2001
- (16) 服部一枝「生きる力と演劇」『日本橋学館大学紀要 Vol.9』日本橋学館大学、2010
- (17) パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』亜紀書房、2011
- (18) 林博子「高等学校教育で「生きる力」をどう育てるか——「自己肯定力」を育む教育の可能性に注目して——」『宇都宮大学生涯学習教育開発センター研究報告 Vol.9』宇都宮大学、2001
- (19) 藤野寛「主体性という理念とその限界」『高崎経済大学論集 Vol.48 No.3』高崎経済大学、2006
- (20) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』開隆堂出版、2005
- (21) 山西優二「開発教育の教師・指導者とは——ファシリテーターを深め、ファシリテーターを超える」『開発教育 Vol.56』明石書店、2009
- (22) ユネスコ『学習：秘められた宝——ユネスコ「21世紀教育国際委員会」報告書』ぎょうせい、1997
- (23) レフ・ヴィゴツキー『「発達の最近接領域」の理論——教授・学習過程における子どもの発達』山学出版、2003

〈参考 URL〉

- (1) 「経済産業省 HP」 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm> (2011 年 7 月 20 日現在)
- (2) 「社会人基礎力に関する緊急調査 (2006 年 4 月経済産業省)」 <http://www.meti.go.jp/press/20060418005/shakaijin,kisoryoku-chousa-set..pdf#search=社会人基礎力%202006年%20「社会人基礎力に関する緊急調査」> (2011 年 7 月 20 日現在)
- (3) 「日本教育工学会 HP」 <http://www.jset.gr.jp/> (2011 年 7 月 20 日現在)
- (4) 「文部科学省 HP」 <http://www.mext.go.jp/> (2011 年 7 月 20 日現在)
- (5) 「中央教育審議会答申 21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について (第一次答申) (1996 年 7 月文部省)」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/960701.htm (2011 年 7 月 20 日現在)

映像制作 アンケート

名前：

最も適当なものに○をしてください。

1. 授業は楽しかったですか？

(YES ・ NO)

2. この授業は自分にとって良い授業だったと思いますか？

(YES ・ NO)

3. この授業でどのような能力が養われたと思いますか？（精神的なことまでOK）（記述）

8. 今回の授業のようなクリエイティブな活動を家族はどのように見ていますか？（記述）

9. 今回の授業のようなクリエイティブな活動を家族はどのように見ていますか？（選択）

- a) 関心があり、理解（同意）してくれている
- b) 関心はあるが、理解はしていない
- c) 理解はしていないが、成果を出せば理解するだろう
- d) 関心はないが、話せば理解するだろう
- e) 関心がなく、理解もしないだろう
- f) わからない
- g) 参加できなかった

4. 他の授業で今回の授業のようなレベルのクリエイティブな経験をしたことはありますか？

(YES ・ NO)

5. 人生の中で今回の授業のようなレベルのクリエイティブな経験をしたことはありますか？（学校行事やクラブ活動や地域活動やインターネット上など）

(YES ・ NO)

6. 今後このような機会が人生の中で再びあると想定しますか？

(YES ・ NO)

7. もしこのような機会が今後あるとすれば、またやりたいと思いますか？

(YES ・ NO)

10. 今回の授業のようなクリエイティブな活動を社会はどのように評価すると思いますか？（記述）

11. この授業の感想を。（記述）

平成 22 年度

3年 選択科目 名【映像制作】(情報)科年間授業計画

教科書【なし】		副読本【 】							
学期	時間	授業内容(単元)	基本目標(評価3)	発展目標(評価4・5)					
1前半	10	・オリエンテーション	人間や世界に興味、関心を向け、深く追求することができる。						
		・映像作品の鑑賞	映像作品からメッセージを抽出し、楽しむことができる。						
		・ストーリー制作	自分と他者の相違点を肯定的に受け止め、他者と対話することができる。						
			・基本目標: 課題を認識し、意見を発表することができる。 ・発展目標: 課題を認識・理解し、他者の意見を取り入れたり、自分の意見を提議することができる。						
1後半	12	・プレゼンテーション&コンペティション(準備)	アイデアをかたちにし、他者に向けて発表することができる。						
		・プレゼンテーション&コンペティション(発表)	真実に発表を聞き、内容を理解し、評価する。 登場人物の背景や事柄を具体的にイメージし、ストーリーの全貌を細かく設定することができる。						
		・あらすじ・人物設定のブラッシュアップ	自ら役割を見つけ、責任を持って担うことができる。						
		・役割の決定	・基本目標: 出された課題を的確に把握し、目的を明確にして発表準備に取り組むことができる。 チームでの活動に自信を持って発表することができる。 ・応用目標: 出された課題を的確に把握し、目的を明確にして発表準備に取り組むことができる。 チームでの活動に自信を持って発表することができる。 第三者にとって分かりやすい説明を追求することができる。						
2前半	10	・シナリオ制作	ストーリーを文脈化、図案化し、イメージを構成することができる。						
		・オーディション(準備)	必要な情報をストーリーから抽出し、準備に反映させることができる。						
		・オーディション(告知)	外部の協力者と社会的な関係を築くことができる。						
		・オーディション(開催)	・基本目標: 当事者意識を持って取り組むことができる。 チームで協力して丁寧に作業を進めることができる。						
2後半	12	・役者の決定	・役者合わせ・台本読み	・ロケ地の探訪・交渉・決定	・絵コンテの作成	・撮影(準備)	・撮影(本番)	・編集	・基本目標: 状況に応じてすばやく判断し、行動することができる。 ・応用目標: 状況に応じてすばやく判断し、行動することができる。 チームや外部協力者に的確な指示や意図の伝達が行える。
3学期	6	・作品の鑑賞	鑑賞を楽しむ工夫を盛り込むことができる。						
			出来上がった作品を批評し、反省点を見つけ出すことができる。						
			さまざまな体験を受け止めて自分の糧にする。						
評価の対象		ペーパーテスト なし	認定の最低ライン						
			すべての単元を理解する。						
			卒業点の事項と点数配分	75					
			積極性						
	○ 作品提出 年間(1)回	自主性							
	○ レポート等提出 毎回	社会性							

(資料2 「映像制作」学習指導計画表)

